まちづくりマップ

隠口の里　泊瀬門前町

与喜山

大泊瀬山とか隠口長谷山といい、古来から樹木の伐採は禁じられてきた原生林で九五〇種もの植物が生育しており、植物の宝庫で与喜山暖帯林として国の天然記念物に指定されている。標高455m。

⑨白髭神社

七四九年十月十五日鎮座。猿田毘古命と妻の天宇豆賣命で、本殿から長谷寺が正面に見える。

⑩法起院

西国三十三所番外札所。西国観音霊場巡礼を始めた徳道上人が晩年隠棲した寺と伝えられている。

⑪与喜天満神社

祭神は菅原道真。長谷寺の地主神、初瀬町内八ヶ大字の氏神である。この地に鎮座したのは平安時代（九四六年）で、天満神社としては日本最古である。現在の社殿は江戸時代（一八一八年）に長谷寺によって再建された建物である。

⑫素盞雄神社

祭神は天照大神の弟にあたる素盞嗚命で、平安時代（九七一年）の鎮座と伝える。別に牛頭天王社とも言われている。例祭では茅の輪くぐりが行われ、頭屋制の祭祀組織が今も伝承されている。

⑬大銀杏

県指定の銀杏。推定樹齢八〇〇年、樹高四〇m、目通り約七.五mの大樹。銀杏は雌雄異株で、ここは雄株である。

⑭玉鬘庵跡

源氏物語の玉鬘巻に登場する玉鬘庵の跡。連歌橋の東、石段の中程を左に入る所にある。

⑮的場家

商い／油屋
屋号／「福地屋」
建築年一八〇六年（文化三年、江戸時代）。

⑯連歌橋

藤原定家一門が長谷寺から与喜天満神社へ歌を作りに行く時渡った橋。もとは太鼓橋であった。

⑰長谷寺

六八六年道明上人が長谷寺を開山。山号を豊山と号し、創建以来九度の罹災で消失と復興を繰り返す。現在の本堂は一六五〇年に再建されたもので、平成十六年十月に国宝に指定された。関係寺院三千ケ寺を有する真言宗豊山派の総本山として、また西国三十三所第八番札所として、檀信徒はおよそ三百万人、四季を通じて「花の御寺」として多くの人々の信仰をあつめている。

①大鳥居跡

明治四十一年（一九〇八年）台風によって倒壊したが、その礎石が残り、一八四一年建立された燈籠二基も残っている。

②金毘羅神社

初瀬新町の氏神である。本殿、拝殿、狛犬一対、朱塗りの金鳥居がある。昭和三十四年の社殿造営に際し、弘化三年と慶応二年の棟札が出現している。

③長谷山口坐神社

延喜式の「式内大社」で、「大山祇神」を主神とする大和六所山口神の一つで、水神である。また手力雄神も祀られている。平安時代には（八五九年）従五位下に叙れている。

⑦芭蕉の石標

石標崇蓮寺の境内に松尾芭蕉翁の古毛里塚の石標【春の夜やこもりどゆかし堂の隅】がある。

Ⓒ長谷寺からの眺望

④廊坊家

長谷寺の俗別当を務められていた。
建築年築不詳　一六〇〇年代後期（江戸時代）。

⑧田中家

本陣、脇本陣を務めた家。
屋号／胡麻屋
建築年築不詳　一八〇〇年代初期（江戸時代）。

⑤山田家

国の登録有形文化財（建物六棟）。
建築年一八三〇年。

⑥伊勢辻の道標

伊勢辻とよばれるところに、一七二六年建立の道標がある。「西面・右いせミち、南面・右くわ音／左なら大坂道、東面・左いせミち、北面・伊勢辻石工桜井与助」と刻まれている。

Ⓐ愛宕山からの眺望
正面に長谷寺が見える隠れスポット

Ⓑ与喜天満神社参道からの眺望
初瀬のまちなみ

散策モデルルート

初瀬観光センター ― ①大鳥居跡 ― ②金毘羅神社 ― ③長谷山口坐神社 ― 愛宕山 ― ⑪与喜天満神社 ― ⑫素盞雄神社 ― ⑬大銀杏 ― ⑯連歌橋 ― 駅への分岐 ― ⑥伊勢辻の道標 ― ⑦芭蕉の石標 ― ⑨白髭神社 ― ⑩法起院 ― 桜の馬場 ― ⑰長谷寺 ― 近鉄長谷寺駅